

巻頭 先生なら、どうしますか？

経済的な理由で進学を断念した生徒。「ここでいいです」忘れられないあの表情
岩手県立くずまき葛巻高校 たきいし抱石鉄也

2 特集

ここまでできる! 情報・データの利活用 実践者と共に考えるガイドライン

16 発問・課題設定をキーに見る
主体的・対話的で深い学び 授業実践

16 英語
青森県立さんぼんぎ三本木高校・附属中学校 坂岡優子
縮約版の活用と多様な表現活動で、幅広い学力層を伸ばす

20 情報
東京都立三鷹中等教育学校 のしる能城茂雄
本物重視の授業が、自ら学ぶ生徒を育む

お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

24 探究学習 伴走する教師たち

高知県立山田高校 はまき濱崎麻衣
仲間との協働、失敗の昇華……。
人生を探究し続けるための大切な経験に生徒と向き合う

お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

26 そうだったのか! 学習評価

評価規準の設定と運用のポイント

お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

28 生徒の可能性を引き出す 新進路選択支援

静岡県・私立静岡聖光学院中学校・高校

何度も自己理解の場を設け、自分の目標を見いだせるよう支援

お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

30 指導変革の軌跡

鹿児島県立与論高校

目標と指導と評価の一体化

定期考査や朝課外を廃止し、単元シラバスを軸とした授業改善に挑む

お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

34 新課程レポート

社会で求められる情報活用能力を
教科横断で育成

実践事例 宮城県宮城第一高校

お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

38 追跡! 働き方改革

生き生きと働き続けられる学校づくりへの挑戦

熊本県立菊池高校編

第1回 業務分析を基に改善策を立てる

改善対象業務を明確化し、各自の工夫を共有する場を設ける

お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

40 教室から始める ウェルビーイングな社会

大阪府立東淀川高校

外国にルーツを持つ生徒とともに学び、「世界」を広げる

お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

42 創り人からのメッセージ For Society, For School

ボディシェアリング研究者 たまき玉城絵美

科学技術の力で現実を他者と共有し、
人生の体験量を最大化する

お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

52 Reader's VIEW

<https://view-next.benesse.jp/>

本誌記事は、ウェブサイトVIEWnext ONLINEでもご覧いただけます。

印刷製本 / (株)協同プレス 編集協力 / (有)ベンダコ 撮影協力 / 荒川 潤、筒井岳彦、鍋坂樹伸、
ヤマグチイッキ イラスト協力 / 伊藤美樹、カモ

※本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。また、敬称略とさせていただきます。

※本誌記載の記事、写真の無断複写、複製及び転載を禁じます。 © Benesse Corporation 2023

データの利活用

#ICT #1人1台端末 #生成AI #情報活用能力

図1 通信インフラの高速化とデータ流通の進展

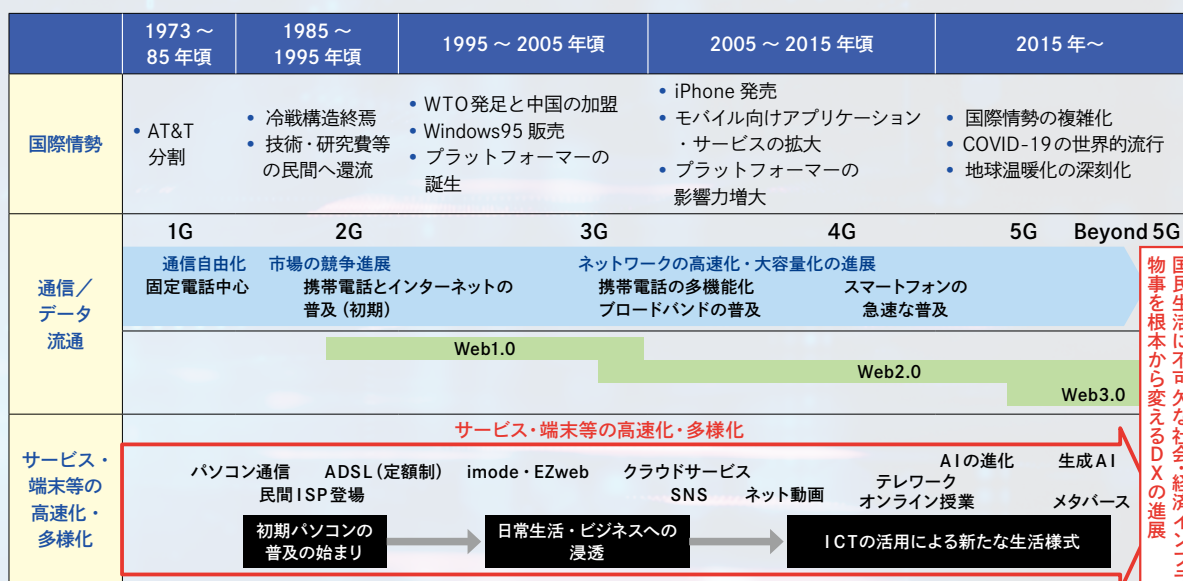


図2 日本のICT市場の動向

	2022年度	前年比
ICT市場規模(支出額)	27.2兆円	+5.2%
デジタル広告市場規模	3.1兆円	+13.7%
動画配信市場規模	5,305億円	+15.0%
メタバース市場規模(売上高)	1,825億円	+145.3%
データセンターサービス(*1)市場規模	2.0兆円	+15.3%
クラウドサービス市場規模(売上)	2.2兆円	+29.8%
インターネットトラフィック(*2)	29.2Tbps	+23.7%

図3 世界の生成AIの市場規模

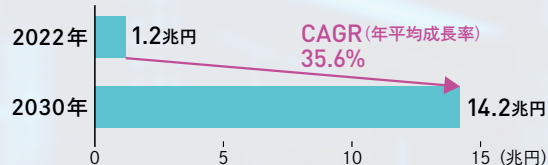


図4 世界のメタバース市場規模



*1 顧客企業の情報システムを、情報サービス事業者のデータセンター内で運用監視するサービス。 *2 インターネットを通じて送受信される情報量。
※図1～4 総務省「令和5年版 情報通信白書」を基に編集部で作成。

ここまでできる! 情報

実践者と共に考えるガイドライン

1995年、「Windows95」の登場によって、日本社会においてもインターネットが急速に普及しました。ただ当時は、ホームページの閲覧など、大多数の人が受信者である、一方向の情報・データのやり取りに過ぎませんでした。しかし、2005年前後にSNSや動画投稿サイトが登場したことで、誰もが発信者になれる時代となり、不特定多数の人の間で情報・データが相互に行き交うようになりました。さらに、スマートフォンの急速な普及、5Gへの進化によって情報・データのやり取りはより一層大容量化・高速化し、日常生活やビジネスに大きな変化をもたらしました(図1)。日本の情報・データに関する市場の拡大(図2)からも分かるように、今後もその流れは続くものと考えられます。それを予兆することの1つが、生成AIの技術の急速な発展です。22年に登場した「ChatGPT」は世界に大きな衝撃を与えました。生成AIやメタパース等の技術の進化は、その市場規模の予測(図3・4)から考えてもまだまだ続くことでしょう。つまり、私たちはますます多くの情報・データに囲まれた社会を生きていくことになります。それは教育の世界も例外ではなく、むしろ生徒が社会に出た時に、情報・データに正しく向き合い、それらをよりよく活用できるよう、必要な資質・能力を学校教育において育成することが一層求められるものと思われまます。生徒は、そして教師は、情報・データをどう利活用していくとよいのか—実践者とともに考えた本特集を、その指針の1つとしてお役立てください。

VIEWnext編集部 統括責任者 柏木 崇

P.4 課題整理

実践者が語る 教育における情報・データの利活用の可能性とは

埼玉県立朝霞高校 定時制課程 浅見和寿^{かずとし} / 静岡県立静岡東高校 神谷隼基^{かみやとしき}
高知県・私立土佐塾中学・高校 藤澤佑介^{ふじさわ} / Classi株式会社 林部貴亮^{たかあき}

P.10 実践事例 生徒の利活用

課題解決につながる情報活用能力を、
探究学習を軸として実践的に育成
岡山県立林野高校

P.13 実践事例 教師の利活用

生徒の学習状況を把握し、
自走力と思考力を育む指導を追求
福岡県・私立九州国際大学付属高校